

# 平成31年度 夢風船 事業計画書

## 1 はじめに

平成30年度は利用者数が29名となり、新規利用者の受入れを中止することとなった。開設から4年が経過し、事業所として安定期に入ったといえ、活動の充実と、利用者一人ひとりのへの支援の充実を重点目標として取り組んだ。目標は職員間で共有され、安定した活動や支援が行われていると考えるが、情報共有や業務の標準化、リスク管理等にまだ不十分な点があり、活動や支援の充実にも改善、発展の余地は多くあるといえる。31年度は基本的には30年度の目標を継続するが、ノウハウの蓄積や新たな発想により更なる内容の充実を図ること中心に取り組みたい。

## 2 事業概要

- |            |   |
|------------|---|
| 1) 施設名     | 夢風船   |
| 2) 事業種別    | 生活介護  |
| 3) 所在地     | 東京都小平市小川町2-1931-1   |
| 4) 運営主体    | 社会福祉法人未来  |
| 5) 利用定員    | 20名   |
| 6) 利用現員    | 28名   |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日   |
| 8) 事業開始年月日 | 平成26年11月1日  |
| 9) 職員      | 管理者 1名<br>サービス管理責任者 1名 (管理者兼務:常勤換算1.0)<br>生活支援員 14名 (常勤換算13.4)<br>准看護師 1名 (常勤換算1.0)<br>嘱託医 1名 |

## 3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

## 4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業 (活動内容)

- 1) 就労支援事業
  - ① 資源回収作業

- ② 弁当配達回収作業
  - ③ マンション清掃受託作業
  - ④ 市内児童公園清掃受託事業
  - ⑤ シュレッダー作業
  - ⑥ PC入力作業
  - ⑦ 折紙製品作成作業
  - ⑧ その他受注作業
- 2) 生活支援事業
- ① 入浴 (毎日)
  - ② 運動プログラム (水泳・ウォーキング)
  - ③ バイタルチェック (朝・入浴前)
  - ④ 夕方生活支援事業 (利用者の余暇支援事業)
- 3) 行事
- 4月 レクリエーション
  - 5月 運動会
  - 6月 紫陽花の花見
  - 7月 レクリエーション
  - 8月 川遊び
  - 9月 ぶどう狩り
  - 10月 レクリエーション
  - 11月 旅行
  - 12月 忘年会
  - 1月 新年会・成人式
  - 2月 合同防災訓練
  - 3月 花見
- 4) その他活動
- ① 音楽活動 (月2回)

## 6 日 課

開所・送迎	8:30~9:30
朝礼	9:30~9:40
健康チェック	
活動の確認	
活動	9:40~12:00
作業 (資源回収作業/弁当配達回収作業/清掃作業/PC作業 等)	
作業 (室内軽作業)	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
昼食・休憩	11:30~13:30
昼礼	13:30~13:35
活動	13:35~15:50
作業 (資源回収作業/弁当箱回収作業/清掃作業/PC作業 等)	
作業 (室内軽作業)	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
終礼	15:50~16:00
送迎・清掃	16:00~17:00

## 7 重点課題・目標

### 1) 活動

#### 1 F— (1) 利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼等の司会の他、利用者が参加する場を新たに設ける。(行事の企画、日々の活動内容の決定、新たな活動や作業の開拓など) また、自ら考える場を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

#### 2 F— (1) 利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、離接や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

#### 1・2 F 共通—

##### (1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

##### (2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動(作業)の開拓と支援

活動や生活場面において、様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

##### (3) 健康管理の充実

一人ひとりの健康管理や衛生保持、また身体機能の維持向上を丁寧に行うとともに、疾病、けが等への迅速な対応を行う。

### 2) 人材育成

#### (1) 主任

- ① 事業全般の把握と判断力の向上
- ② 職員行動観察による適性や能力の把握とその活用のための手法の獲得
- ③ 地域の状況把握とネットワーク強化
- ④ 指定変更届出、補助金申請等の書類作成技術向上

#### (2) 生活支援員

- ① リーダー職及びその候補者の育成
- ② 相談支援のスキル向上
- ③ 業務標準化の実施
- ④ 職員間の連携強化(より良い支援の為の協力関係・相互干渉・情報共有・意見交換等)
- ⑤ 介護福祉士などの資格取得や強度行動障害支援者養成講座受講などにより専門性の向上を図る。

#### (3) 出納職員候補の育成

### 3) 経営管理

#### (1) 介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者22人(28人在籍利用率78.5%)を目標とし、利用者の安定通所を図る。(30年度実績23.36人—31年2月末現在。30年2月に1名退所に伴い、利用実績減の見込) 32年度に1日平均利用者23人を目標とし、新規利用者1名の受入れ準備を進める。

(具体的方策)

- ・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
- ・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。

② 介護福祉士などの資格取得や加算対象の講座受講を推奨し、給付費の加算確保に努める。

(2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

(3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

## 8 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努める。

## 9 健康管理

定期的に健康診断・身体測定を行い、健康状態の把握に努めるとともに、利用者の家族・保健師等との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

## 10 防災計画

管理者の指揮のもとに、非常災害訓練を年3回実施する。

総指揮 管理者

連絡担当 生活支援員

救助担当 生活支援員

## 11 資金計画

通常の運営経費は、運営費でまかなう。